



三点目を挙げた国井選手

年が明けて平成26年、硬式野球部から目が離せなくなりそう。昨年の11月に、首都大学野球連盟の主催で行われた新人戦で筑波大学の硬式野球部が見事優勝したのである。今回はその優勝チームを率いた主将の板崎直人選手（体育2年、栃木・作新学院高）、そして大会最優秀選手を獲得した大澤永貴選手（体育1年、岩手・花巻東高）の二人にお話を伺った。

まずは大会を振り返って。筑波大は全部で3試合を戦った。初戦、城西大を僅差で破り勢いをつけると、準決勝では秋季リーグ優勝校の東海大に10-2で圧勝。そして決勝で東京経済大を破り、見事栄冠を勝ち取った。「投手を中心に守備からリズムが作れた。打線もそのリズムのつて上位でも下位でもどこからでも攻め、点を取ることができた。」と主将の板崎選手。次に大澤選手にお話を伺った。「自分の打順やポジションを考え、与えられた役割をしっかり果たせたのが大きい。」と話してくれた。連戦だったこともあり、後半の粘りがこれからの課題だそう。そんな大澤選手について板崎選手は、シートの守備、そしてチャンスに強いバティングが魅力、と話す。今回の優勝にも大きく貢献した。また、大澤選手と二遊間を組んだ板崎選手も、主将として攻守両面でチームを牽引した。この2人なくして、筑波大の快進撃はありえなかっただろう。

頂点に登りつめたこのチームは、新人戦のため1、2年生のみで構成されている。平成26年の硬式野球部は、そんな彼らが中心となる世代だ。新人戦の直後に始動した新チームについても語ってくれた。環境整備や練習に対する意識など、すべてをイチから見直し、皆で切磋琢磨していくとのこと。4位に終わった秋季リーグでは、競り合いになったときのアと1本が出なかった。その反省も活かし、より一層の緊張感を持って練習に臨んでいるようだ。

最後に、今後の目標についてお聞きした。「まずは次の春季リーグで優勝すること。そのためには攻守ともにもう一段階レベルアップしなければならぬ。そして、最終的には神宮球場へ行き、全国制覇を成し遂げる。」と板崎選手。大澤選手も、「目標はすでに決まっているので、それに向けて一人一人が厳しく練習に取り組みなければならぬ。個人としては、守備はノーマル、打撃では、打順に応じて与えられた役割をしっかりと果たしていければ、と思う。」と話す。

新チームのスローガンは「覚悟」。その道のりは厳しいものになるだろうが、是非ともその先にある栄冠を勝ち取って欲しい。（鈴木優輔）

TEAM	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
筑波大学	1	0	3	0	0	0	0	0	0	4
東京経済大学	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2

筑波スポーツ

平成26年2月4日(火) 第156号

題字:中山雅史氏
(元サッカー日本代表・蹴球部OB)



先発し好投した前田選手



攻守に活躍した大澤選手(写真右)

平成25年度筑波大学体育会賞

団体の部



第26回全日本ライフセービングプール選手権大会
SERC1位



第65回秩父宮賜杯全日本バレーボール
大学男子選手権大会



第82回全日本学生陸上競技対抗選手権大会
女子 総合優勝

ライフセービング部 男子バレーボール部 陸上競技部



第9回全日本学生ラート競技選手権大会
団体 優勝



全日本学生柔道体重別選手権大会
団体 優勝



第61回全日本学生剣道優勝大会
優勝



第26回全日本高校・大学
ダンスフェスティバル神戸 優勝

体操部

柔道部

剣道部

ダンス部

個人の部



国民体育大会
団体 優勝

村上 のどか



ユニバーシアード競技大会
柔道競技 73kg級 3位

西山 雄希



ヨーロッパオープン・トビリシ
81kg級 2位

永瀬 貴規



全日本ジュニア柔道体重別
選手権大会 90kg級 優勝

小林 悠輔



全日本学生柔道体重別選手権大会
48kg級 優勝

遠藤 宏美



全日本学生柔道体重別選手権大会
73kg級 優勝

安 昌林

柔道部



第35回全国国立大学 空手道選手権大会
男子個人型 1位

中嶋 崇了

空手道部



第6回東アジア競技大会
女子100m背泳ぎ 3位

諸貫 瑛美



第10回フィンスイミング日本学生選手権大会
男子CMASビーフィン200m 優勝

山下 雄大



FINAワールドカップ2013東京
200m背泳ぎ 優勝

金子 雅紀



第30回日本身体障がい者水泳選手権
男子50m自由形 第1位

山田 拓朗

水泳部



アジア柔道選手権大会
100kg級 3位

シャ-7セインシャ-

陸上部



第82回日本学生陸上競技対抗選手権大会
女子400mH 優勝

松田 絵梨



第82回日本学生陸上競技対抗選手権大会
女子100m 優勝

世古 和



第82回日本学生陸上競技対抗選手権大会
女子100mH 優勝

相馬 絵里子



第82回日本学生陸上競技対抗選手権大会
男子走高跳 優勝

戸邊 直人

(写真中央)



第82回日本学生陸上競技対抗選手権大会
女子3000mSC 優勝

中村 真悠子



第82回日本学生陸上競技対抗選手権大会
男子3000mSC 優勝

津田 修也

(写真中央)



第68回国民体育大会
男子走高跳 優勝

衛藤 昂



第82回日本学生陸上競技対抗選手権大会
女子4×100mリレー 優勝

中野 瞳



第82回日本学生陸上競技対抗選手権大会
女子4×100mリレー 優勝

清山 ちさと



第82回日本学生陸上競技対抗選手権大会
男子ハンマー投 優勝

保坂 雄志郎



第82回日本学生陸上競技対抗選手権大会
男子走幅跳 優勝

嶺村 鴻太

(写真中央)



第82回日本学生陸上競技対抗選手権大会
女子円盤投 優勝

高橋 亜弓

(写真中央)



第82回日本学生陸上競技対抗選手権大会
女子やり投 優勝

久世 生宝



第25回フィンスイミング日本選手権大会
女子400mサーフィス 1位

山岡 明奈

医学水泳部



第9回全日本学生ラート競技選手権大会
団体・個人総合1位

安高 啓貴



第18回全日本ラート競技選手権大会
女子個人総合 1位

松浦 佑希



世界ラート競技選手権大会2013
団体 2位

田村 元延



世界ラート競技選手権大会2013
団体 2位

堀口 文

体操部



第27回ユニバーシアード競技大会
ハーフマラソン 団体1位

上野 泰加



第56回東日本医科学生総合体育大会
陸上競技部門 女子やり投げ 優勝

川口 安珠



第56回東日本医科学生総合体育大会
陸上競技部門 女子砲丸投げ 優勝

岩下 美紗子



第56回東日本医科学生総合体育大会
陸上競技部門 男子5000m 優勝

浅田 陸

医学陸上部



ユニバーシアード競技大会
サッカー男子 3位

車屋 紳太郎



ユニバーシアード競技大会
サッカー男子 3位

谷口 彰悟



ユニバーシアード競技大会
サッカー男子 3位

赤崎 秀平

蹴球部

皆さん、はじめまして。第38代体育会執行委員長として、昨年1年間財務局長として援助金に関する仕事をさせて頂き、体育会の仕組みや歴史を知り、その中で様々な問題があるということがわかりました。まだまだ未熟な部分があり、体育会の皆さんには迷惑をかけているかとも思っています。賞者は昨年に比べ大幅に増え、筑波大学の学生が世界や日本全国を舞台に活躍しています。今年度も体育会の皆さんの素晴らしい活躍を願っています。

私達、体育会執行委員会では、体育会全体の運営をお願いします。

(寄稿・吉澤悟)

皆さん、はじめまして。第38代体育会執行委員長として、昨年1年間財務局長として援助金に関する仕事をさせて頂き、体育会の仕組みや歴史を知り、その中で様々な問題があるということがわかりました。まだまだ未熟な部分があり、体育会の皆さんには迷惑をかけているかとも思っています。賞者は昨年に比べ大幅に増え、筑波大学の学生が世界や日本全国を舞台に活躍しています。今年度も体育会の皆さんの素晴らしい活躍を願っています。

私達、体育会執行委員会では、体育会全体の運営をお願いします。

(寄稿・吉澤悟)

皆さん、はじめまして。第38代体育会執行委員長として、昨年1年間財務局長として援助金に関する仕事をさせて頂き、体育会の仕組みや歴史を知り、その中で様々な問題があるということがわかりました。まだまだ未熟な部分があり、体育会の皆さんには迷惑をかけているかとも思っています。賞者は昨年に比べ大幅に増え、筑波大学の学生が世界や日本全国を舞台に活躍しています。今年度も体育会の皆さんの素晴らしい活躍を願っています。

私達、体育会執行委員会では、体育会全体の運営をお願いします。

(寄稿・吉澤悟)

皆さん、はじめまして。第38代体育会執行委員長として、昨年1年間財務局長として援助金に関する仕事をさせて頂き、体育会の仕組みや歴史を知り、その中で様々な問題があるということがわかりました。まだまだ未熟な部分があり、体育会の皆さんには迷惑をかけているかとも思っています。賞者は昨年に比べ大幅に増え、筑波大学の学生が世界や日本全国を舞台に活躍しています。今年度も体育会の皆さんの素晴らしい活躍を願っています。

私達、体育会執行委員会では、体育会全体の運営をお願いします。

(寄稿・吉澤悟)

皆さん、はじめまして。第38代体育会執行委員長として、昨年1年間財務局長として援助金に関する仕事をさせて頂き、体育会の仕組みや歴史を知り、その中で様々な問題があるということがわかりました。まだまだ未熟な部分があり、体育会の皆さんには迷惑をかけているかとも思っています。賞者は昨年に比べ大幅に増え、筑波大学の学生が世界や日本全国を舞台に活躍しています。今年度も体育会の皆さんの素晴らしい活躍を願っています。

私達、体育会執行委員会では、体育会全体の運営をお願いします。

(寄稿・吉澤悟)

皆さん、はじめまして。第38代体育会執行委員長として、昨年1年間財務局長として援助金に関する仕事をさせて頂き、体育会の仕組みや歴史を知り、その中で様々な問題があるということがわかりました。まだまだ未熟な部分があり、体育会の皆さんには迷惑をかけているかとも思っています。賞者は昨年に比べ大幅に増え、筑波大学の学生が世界や日本全国を舞台に活躍しています。今年度も体育会の皆さんの素晴らしい活躍を願っています。

私達、体育会執行委員会では、体育会全体の運営をお願いします。

(寄稿・吉澤悟)

皆さん、はじめまして。第38代体育会執行委員長として、昨年1年間財務局長として援助金に関する仕事をさせて頂き、体育会の仕組みや歴史を知り、その中で様々な問題があるということがわかりました。まだまだ未熟な部分があり、体育会の皆さんには迷惑をかけているかとも思っています。賞者は昨年に比べ大幅に増え、筑波大学の学生が世界や日本全国を舞台に活躍しています。今年度も体育会の皆さんの素晴らしい活躍を願っています。

私達、体育会執行委員会では、体育会全体の運営をお願いします。

(寄稿・吉澤悟)

第37代体育会執行委員長
綿谷 桂太

振り返ってみると、あつという間に任期が終わってしまったという印象です。私が執行委員に就任したのは2年前、広報局長として右も左も分らないままのスタートでした。蹴球部に所属しており、部活と執行委員会の二足のわらじで、忙しくも充実した日々を送っていました。最初、体育会とはなにか、なんのためにやっているのかわからず、仕事に対するやりがいを見出すことはできませんでした。しかし、少し考え方を変えて自分の置かれている環境をプラスに捉えるようにすることで、少しずつやりがいを見出すことができるようになりました。自分の成長のために、この環境を利用しようと考え、少しでも付加価値をつけようと工夫しました。そうすることで、日常の業務がただやられているだけのものではなく、肯定的に捉えられるようになりました。また、頼もしい仲間にも恵まれて、本当に居心地の良い環境であつたと思います。

さて、体育会にとって今年是非常に重要な年になったのではないのでしょうか。そのひとつが加盟団体の飲酒問題です。本件に関して、執行委員

スーパースター
勢揃い!!

2013年度

卒業生特集!



今年も筑波大学で活躍した多くの選手が卒業していく。陸上競技部の上野選手(人文4年神奈川・横須賀高)もそんな人だ。

上野選手はもとも1500mや5000mを主戦場とする選手だった。しかし今年度から参戦したハーフマラソンでも活躍を見せる。ユニバーシアード予選を兼ねた松江レディースハーフマラソンで二位に入り、カザフスタンで開催されたユニバーシアード競技大会に日本代表として参加するなどの実績を残した。

上野選手が陸上を始めたのは中学校に入学してから。当初はあまり走ることが好きではなかったが、次第に走り続けるうちに好きになっていったという。そんな上野選手は高校時代から、あまり苦には

感じなかったという。まさに文武両道、ぜひ見習いたいところである。

そんな上野選手が特にこの4年間でうれしかったのは、3年生の時に全日本大学女子駅伝出場を決めたこと。彼女自身、2年生の時時点で関東インカレなどにおいて自身の目標とする成績は残せていた。しかし、団体として目標としていた大学女子駅伝への出場はできていなかった。それを3年生のシーズンでは関東大会で優勝し全国の切符を掴むことができた。それまで強く意識して練習してきた舞台に立つことが、「言葉にできない喜びを感じた。」常に全国の舞台に立てるわけではないからこそ、喜びも層深かったという。

一方4年生のシーズンになってからは、昨年度のシーズンの好成績を意識しすぎてしまい、結果を残すことがあまりに照準を合わせてしまった。練習でも自分自身に厳しくしすぎてしまったことを後悔しているという。だが、「シーズンごとの波を経験したということでは自分の糧にしていきたい。」という。

そんな上野選手は卒業後も走り続けることを選んだ。これからは筑波大学で走ったことを胸に、さらに先の舞台で活躍してほしい。

(島根崇志)



昨年の学生優勝大会で日本に輝いた、筑波大剣道部。今回特集するのは、そんな剣道部を牽引した山下渉選手(体育4年、茨城・水戸養陵)だ。大学での4年間だけでなく、中学校や高校の頃もインカレなどにおいて自身の目標とする成績は残せていた。しかし、団体として目標としていた大学女子駅伝への出場はできていなかった。それを3年生のシーズンでは関東大会で優勝し全国の切符を掴むことができた。それまで強く意識して練習してきた舞台に立つことが、「言葉にできない喜びを感じた。」常に全国の舞台に立てるわけではないからこそ、喜びも層深かったという。

一方4年生のシーズンになってからは、昨年度のシーズンの好成績を意識しすぎてしまい、結果を残すことがあまりに照準を合わせてしまった。練習でも自分自身に厳しくしすぎてしまったことを後悔しているという。だが、「シーズンごとの波を経験したということでは自分の糧にしていきたい。」という。

そんな上野選手は卒業後も走り続けることを選んだ。これからは筑波大学で走ったことを胸に、さらに先の舞台で活躍してほしい。

(島根崇志)

大剣道部で過ごした4年間に本に輝いた。筑波大剣道部。今回特集するのは、そんな剣道部を牽引した山下渉選手(体育4年、茨城・水戸養陵)だ。大学での4年間だけでなく、中学校や高校の頃もインカレなどにおいて自身の目標とする成績は残せていた。しかし、団体として目標としていた大学女子駅伝への出場はできていなかった。それを3年生のシーズンでは関東大会で優勝し全国の切符を掴むことができた。それまで強く意識して練習してきた舞台に立つことが、「言葉にできない喜びを感じた。」常に全国の舞台に立てるわけではないからこそ、喜びも層深かったという。

一方4年生のシーズンになってからは、昨年度のシーズンの好成績を意識しすぎてしまい、結果を残すことがあまりに照準を合わせてしまった。練習でも自分自身に厳しくしすぎてしまったことを後悔しているという。だが、「シーズンごとの波を経験したということでは自分の糧にしていきたい。」という。

そんな上野選手は卒業後も走り続けることを選んだ。これからは筑波大学で走ったことを胸に、さらに先の舞台で活躍してほしい。

(島根崇志)



を有利に進められた準決勝までとは異なり、決勝戦は負け代は主将として活躍、華々しい実績を引っかけて筑波大に入学した山下選手。大学でも主力選手として活躍し、戦での勝利につながり、優勝という結果を導いたのだ。大將としてしっかりと役割を果たせてよかった、と話してくる。

山下選手が剣道を始めたのは幼稚園の頃。姉の影響で始めたそうだが、地元、道場に通いつめ、小学校、中学校のころから全国大会で実績を残してきたが、1位にはなれなかった。更なる強さを求めて、全国トップレベルの強豪校に進学。見事、インターハイで優勝した。代が変わったものの、剣道部に向けて、「一言頂いた。これからは連覇が目標になってくると思うが、あまり先のことを考えすぎず、まずは目の前のことに精一杯取り組んでほしい。小さな努力の積み重ねが、大会での結果につながってくるはずなので、後回しにせずに、今を頑張ってください。」

幼少期から練習を積んできた山下選手。卒業後は講師として、中学生に剣道を教えることで、競技に携わりたい、と話していた。指導者として活躍する日も、そう遠くはないのかもしれない。

(鈴木優輔)

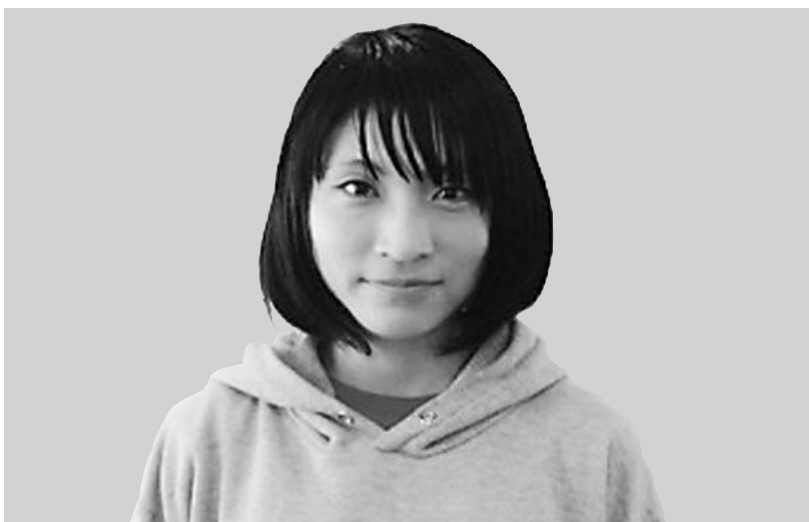
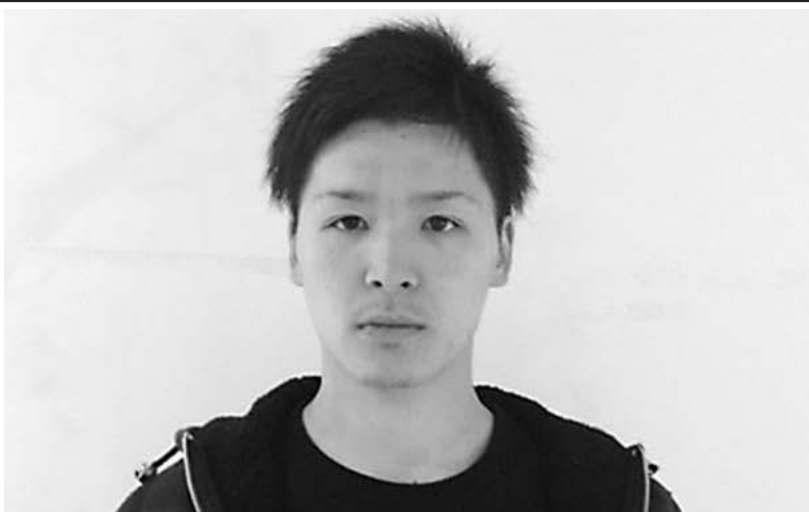
ことは、「昨年11月に行われた全日本学生団体別団体で日本になったこと。主将としてうまくチームをまとめることができた。」歳上のお兄さんは昨年まで同じ柔道部で主将を務めた西山大希さん。そのお兄さんから、バトンをしっかりと受け継いで柔道部を引っ張ってきた。

これからの柔道部については、「練習の雰囲気も良いし、このまま頑張りたい。今の二年生はしっかりといて実力もあるの、中心になつて6月の全日本柔道選手権で無差別級日本一になってほしい」と期待を込めて話してくれた。

柔道以外で印象に残ったことは、と尋ねると返答に困るほど柔道に捧げ、打ち込み続けた4年間だったとのこと。

目標は毎年行われる世界選手権で優勝すること。そして2年後のリオデジャネイロ五輪で金メダルをとること。2年後のリオの先には6年後の東京五輪が待っている。海外の選手のレベルが上がり、体格的に不利な日本人が勝つことは徐々に難しくなっているが、「やはり日本の柔道は世界一」ということを証明してもらいたい。そして、お兄さんと二人そつて金メダルを掲げる姿がそこにあることを願っている。

(藤原真梨子)

陸上競技部
上野 泰加 選手(人文)剣道部
山下 渉 選手(体育)柔道部
西山 雄希 選手(体育)



西村 直久 選手



残念ながら有終の美を飾ることはできなかったが、バスケットボール部の後輩は両選手の姿勢や背中から、多くを学んできたのだろう。「実現できなかった日本」を目指して、漠然と生きてほしい。この言葉を胸にした男子バスケットボール部の活躍を期待したい。(安部隆虎)

男子バスケットボール部

シーズン最終戦!! vs九州電力

NBLのトップチームも出場する第89回天皇杯全日本総合バスケットボール選手権での初戦、男子バスケットボール部は社会人チーム九州電力の前に僅か5点の差で敗れた。

序盤から激しい競り合いを見せる両チームだったが試合の明暗を分けたのは、最終ピリオド残り24秒でのスリーポイントシュートだろう。入れば同点という期待を託された筑波大のシュートは、無情にもリングに嫌われてしまった。その直後、九州電力のフリースローで決着。「正直、勝てる試合であったと思う」そう語る西村直久選手。体育4年、



池田 龍之介 選手

埼玉・正智深谷高の顔には悔しさがにじんでいた。「チーム内での共通意識の弱さが、最後の踏ん張りに影響した」と厳しく分析する池田龍之介選手。体育4年、東京・京北高。両選手ともに敗因を選手間のモチベーションの相違とみていた。チームの団結、これが男子バスケットボール部の直近の課題のようだ。ここまでの道のりは単純なものではなかった。西村選手は少しはかみながら語ってくれた。「部をやめたいという度もあったし、大きなケガもあった。それでも支えてくれる仲間や先生がいたからこそ、チームのために必死にな

れた。主将としての責任感、彼を大きく成長させたようだ。一方の池田選手は「今まで好きにさせてくれたことを感謝している」と誇らしげに語った。「自分は自分らしく、ただひたすらに頑張ることが恩返しだと考えていた。だからこれからもそうしたい」日本を目指し、バスケットボールに向かい合う日々も、段々落着いてきた。今春から社会人としての生活が始まる両選手に、その意気込みを伺った。これまで「気ままに自分らしく」を貫いてきた池田選手は「就職先にいる憧れの先輩を目指しつつ、人間性の磨かれた社会人になりたい」と決意表明。横でうなずいていた西村選手は「バスケットボールと呼ばれるバスケットボールだからこそ、社会人であるという自覚をしっかり持ちながら生活したいと、頼もしく語ってくれた。

男子ハンドボール部

インカレベスト8!!



八巻 雄一 選手

昨年11月23日から28日まで平成25年度全日本学生ハンドボール選手権大会が開催された。筑波大は準々決勝敗退、ベスト8入りを果たした。インカレについて、旧主将の山手就策選手。体育4年、広島・桃山学院高と新主将の谷之木陵選手。体育3年、宮崎・小林秀峰高にお話を伺った。

（山手選手）「インカレに向けて身体面、精神面、戦術においてかなり準備をしていた。チーム全体の力が向上した。関西大では自分たちの思い通りに試合を進めることができた。相手にずっとリードし続けることができたのはインカレ前の準備のおかげだと思う。」



新キャプテン
谷之木 陵 選手



旧キャプテン
山手 就策 選手

ただ、初めて試合をするチームが多く、初めての苦労もあった。ただ、最終的にはもう少しやりたい気持ちもあったが、やりきったと思える試合だった。チーム全員が良い状態で試合に挑めた。特に八巻選手。体育4年、山梨・駿台甲府高は春よりもかなり成長したと思う。

（谷之木選手）「インカレ全体を通して、選手の層が厚く、スタメンでも控えでも戦っていた。チーム全体の力が向上した。しかし、大阪体育大は初めてやる相手で、自分たちのやることを徹底できず、相手の対策をする前に負けてしまった。」

このインカレにおいて代替わりをした男子ハンドボール部。主将を引退した山手選手に4年間を振り返って頂いた。

（山手選手）「今年は優勝こそ出来なかったものの、4年間で一番良い年だった。インカレでやるべきことはやれた。悔いはない。」

新主将である谷之木選手に新チームについて伺った。

（谷之木選手）「先輩から学んできたことを土台にして、攻守にわたってつても多く、今年度の結果を上回っていきたい。個人としては、キャプテンとして、プレーでチームを引っ張ってきたい。」

（谷之木選手）「今年度は失点を抑えるように、防御に力を入れた。新チームでは点数を取ることを全員の意識として持っている。攻撃が課題だ。」

（谷之木選手）「谷之木選手は4年間の集大成として悔いがない試合だった。谷之木選手が見据える来年度の男子ハンドボール部は、その結果を選手率いる、攻撃的な男子ハンドボール部の活躍が楽しみである。」

（小峰朱理葉）

（小峰朱理葉）

結果一覧

第3回 リレーコラム

リレーコラム第三回を担当します。鈴木です。少々遅くなりましたが、まずは平成26年、明けましておめでとうございます。年も明けて大学に入学してから約10ヶ月が経ちますが、本当に約10ヶ月の間、時の流れの速さを感じています。自分を取り囲む環境も、10ヶ月前とは大きく変わりました。年末年始に帰省しましたが、やはり一人暮らしをするのが、年々大きさを痛感します。そんなことを頭の中では考えていても、残念ながら体はこたつかから微動だに

しません。みかんを食べながら箱根駅伝を見た、そんなお正月でした。そして約2ヶ月後には、もう後輩が入学してきます。学類やサークルにどんな後輩がやってくるのか、楽しみで仕方ありません。一方で、筑波を旅立たれる方も多くいらっしゃいます。皆さんが選択した道で、活躍されることを祈っております。私もあと2年半、3年後には社会に出る準備をしなければいけないのか、と思うと若干の焦りを感じます。下級生の今、時間があるう

ちに、色々なことに挑戦してみたいなあ、なんてぼんやり考えています。さて、平成26年、午年です。目標や決意など、新たにされた方もありますが、今年が私にとって10代最後の年になります。悔いの残らないよう、競走馬のように全力で駆け抜けていきたいと思えます。今年も筑波スポーツ新聞をよろしくお願ひいたします。(鈴木優輔)

次は筑波編集委員の藤原真梨子さんです。

【硬式野球】 （首都大学野球新人戦） 1回戦●筑波大3-2●城西大 2回戦●筑波大4-12●東海大 準決勝●筑波大10-2●東海大 決勝●筑波大4-2●東京経済大 大会結果 優勝	【女子バスケットボール】 （全日本学生） 1回戦●筑波大33-27●関西大 2回戦●筑波大24-27●中央大 準決勝●筑波大11-29●早稲田大 決勝●筑波大11-29●早稲田大 大会結果 優勝	【女子ハンドボール】 （全日本学生） 1回戦●筑波大3-0●道都大 2回戦●筑波大3-0●東北福祉大 3回戦●筑波大1-3●鹿屋体育大 大会結果 優勝	【女子バレーボール】 （全日本学生） 1回戦●筑波大3-0●道都大 2回戦●筑波大3-0●東北福祉大 3回戦●筑波大1-3●鹿屋体育大 大会結果 優勝	【男子バレーボール】 （全日本学生） 1回戦●筑波大3-0●道都大 2回戦●筑波大3-0●東北福祉大 3回戦●筑波大1-3●鹿屋体育大 大会結果 優勝	【男子バスケットボール】 （全日本学生） 1回戦●筑波大33-27●関西大 2回戦●筑波大24-27●中央大 準決勝●筑波大11-29●早稲田大 決勝●筑波大11-29●早稲田大 大会結果 優勝	【男子ハンドボール】 （全日本学生） 1回戦●筑波大3-0●道都大 2回戦●筑波大3-0●東北福祉大 3回戦●筑波大1-3●鹿屋体育大 大会結果 優勝	【男子バレーボール】 （全日本学生） 1回戦●筑波大3-0●道都大 2回戦●筑波大3-0●東北福祉大 3回戦●筑波大1-3●鹿屋体育大 大会結果 優勝
---	---	--	--	--	---	--	--

【男子バレーボール】 （全日本学生） 1回戦●筑波大3-0●道都大 2回戦●筑波大3-0●東北福祉大 3回戦●筑波大1-3●鹿屋体育大 大会結果 優勝	【男子バスケットボール】 （全日本学生） 1回戦●筑波大33-27●関西大 2回戦●筑波大24-27●中央大 準決勝●筑波大11-29●早稲田大 決勝●筑波大11-29●早稲田大 大会結果 優勝	【男子ハンドボール】 （全日本学生） 1回戦●筑波大3-0●道都大 2回戦●筑波大3-0●東北福祉大 3回戦●筑波大1-3●鹿屋体育大 大会結果 優勝	【男子バレーボール】 （全日本学生） 1回戦●筑波大3-0●道都大 2回戦●筑波大3-0●東北福祉大 3回戦●筑波大1-3●鹿屋体育大 大会結果 優勝	【男子バスケットボール】 （全日本学生） 1回戦●筑波大33-27●関西大 2回戦●筑波大24-27●中央大 準決勝●筑波大11-29●早稲田大 決勝●筑波大11-29●早稲田大 大会結果 優勝	【男子ハンドボール】 （全日本学生） 1回戦●筑波大3-0●道都大 2回戦●筑波大3-0●東北福祉大 3回戦●筑波大1-3●鹿屋体育大 大会結果 優勝	【男子バレーボール】 （全日本学生） 1回戦●筑波大3-0●道都大 2回戦●筑波大3-0●東北福祉大 3回戦●筑波大1-3●鹿屋体育大 大会結果 優勝	【男子バスケットボール】 （全日本学生） 1回戦●筑波大33-27●関西大 2回戦●筑波大24-27●中央大 準決勝●筑波大11-29●早稲田大 決勝●筑波大11-29●早稲田大 大会結果 優勝
--	---	--	--	---	--	--	---

【男子バレーボール】 （全日本学生） 1回戦●筑波大3-0●道都大 2回戦●筑波大3-0●東北福祉大 3回戦●筑波大1-3●鹿屋体育大 大会結果 優勝	【男子バスケットボール】 （全日本学生） 1回戦●筑波大33-27●関西大 2回戦●筑波大24-27●中央大 準決勝●筑波大11-29●早稲田大 決勝●筑波大11-29●早稲田大 大会結果 優勝	【男子ハンドボール】 （全日本学生） 1回戦●筑波大3-0●道都大 2回戦●筑波大3-0●東北福祉大 3回戦●筑波大1-3●鹿屋体育大 大会結果 優勝	【男子バレーボール】 （全日本学生） 1回戦●筑波大3-0●道都大 2回戦●筑波大3-0●東北福祉大 3回戦●筑波大1-3●鹿屋体育大 大会結果 優勝	【男子バスケットボール】 （全日本学生） 1回戦●筑波大33-27●関西大 2回戦●筑波大24-27●中央大 準決勝●筑波大11-29●早稲田大 決勝●筑波大11-29●早稲田大 大会結果 優勝	【男子ハンドボール】 （全日本学生） 1回戦●筑波大3-0●道都大 2回戦●筑波大3-0●東北福祉大 3回戦●筑波大1-3●鹿屋体育大 大会結果 優勝	【男子バレーボール】 （全日本学生） 1回戦●筑波大3-0●道都大 2回戦●筑波大3-0●東北福祉大 3回戦●筑波大1-3●鹿屋体育大 大会結果 優勝	【男子バスケットボール】 （全日本学生） 1回戦●筑波大33-27●関西大 2回戦●筑波大24-27●中央大 準決勝●筑波大11-29●早稲田大 決勝●筑波大11-29●早稲田大 大会結果 優勝
--	---	--	--	---	--	--	---

ラグビー大学選手権

3位入賞!



正月2日に国立競技場にて、大学選手権準決勝が行われた。ベスト4に残ったのは、筑波大・早稲田大・慶応大・帝京大の4校。いずれも関東対抗戦A所属のチームだ。筑波は3年連続の準決勝進出だが、昨年、昨年ともに帝京に阻まれ、未だ頂点には届いていない。準決勝は、対抗戦では敗れた早稲田との一戦。対抗戦でのリベンジを果たし、帝京に三度挑戦するための大事な戦となった。

この試合には、筑波の主将のS日内田啓介(体育4年・京都・伏見高)、WTB福岡堅樹選手(情報2年・福岡高)など日本代表経験のある選手が複数出場し、また、期待された山沢選手(体育4年・伏見高)も久々に先発に名を連ね、好ゲームが期待された。

前半、筑波は不利と言われる風下からのスタートとなった。開始6分、S日内田も早稲田選手(体育1年・埼玉・深谷高)が、難しい角度からのペナルティゴールを華麗に決めた。山沢選手の対抗戦でのゴール成功率は80%を超えており、正確なキック力が彼の魅力だ。前半10分、早稲田のノックアウトボールを前に落とす反則からボールを奪い返し、外へ展開。F山下(体育3年・長崎北高)がトライを決めた。不利な風下ながら、筑波が8点をリードする展開となった。しかし20分に早稲田がトライ、ゴールを決め、26分にはペナルティゴールによって、8-10と逆転された。後半、早稲田陣内での攻防が続くものの、筑波は早稲田の堅いディフェンスによってトライの道をこじ開けることができない。福岡選手も、早稲田の厳しいマークによって後足を生かすことができなかった。結局、後半、筑波はペナルティキック1本のみの、ノートライに終わった。対する早稲田は少ないチャンスを確実にものにし、3トライを奪い、11-29で早稲田が勝利した。筑波の日本への挑戦はまたしても道半ばで潰れた。来年こそは、日本の栄冠を手にした。

(大庭夏海)



攻守の要となるポジションのS日内田拓也選手(体育1年・深谷高・埼玉)に話を伺った。筑波大には主将でS日の内田啓介選手(体育4年・伏見工業高・京都)やWTB福岡堅樹選手(情報2年・福岡高・福岡)などといった日本代表が在籍している。その2人をはじめ、チームメイトや監督が山沢選手に全幅の信頼を置いているのだ。司令塔と呼ばれるS日というポジションを1年生ながら任されていることからその信頼性の高さがうかがえる。

中学まではサッカーを主にやっていた山沢選手だが、兄の影響で高校からラグビーを始めたという。高校1年での出場した花園では「スーパー1年生」として躍目目的となった。それで降も高校生でただ1人日本代表候補に召集されるなど、同世代では常にとんを走り続けてきた。

筑波大に進学してから海外遠征にたびたび行っており、右膝の手術もあって筑波大のユニフォームを着て試合に出場することは少なかった。山沢選手は「早く筑波大として

年明けから早一ヶ月ほど経ってしまったが、新年あけましておめでとうございます。本年も筑波スポーツを何卒よろしくお願致します。いつの間にか、私の大学3年の年も終わりに近づいています。筑波スポーツ編集部は3年まで。私もとうとう引退となりました。二期制の移行や筑波スポーツ内容、部員数などなど、たくさん問題にぶつかり、悩んだ一年でした。ただただ不甲斐無い編集長でいる方にご迷惑ばかりおかけ致しました。それでも、こうして編集長として関わった筑波スポーツの皆様のお手元に届けることができ、とても嬉しいです。次号からは代替わりをし、新たな編集長が筑波スポーツを担当します。筑波スポーツの、番の愛読者として、皆様と同様に次号の筑波スポーツを楽しみにしています。

本当にありがとうございます。

編集後記

発行所/筑波大学体育会
(TEL.029-853-2589)
発行人/吉澤 悟
編集/筑波スポーツ編集部
tsukusupo@hotmail.co.jp
責任者/小峰朱理菜(編集長)

編集長 小峰朱理菜(人文3年)
副編集長 三浦加奈(比文3年)
主務 中矢 圭(知識2年)
広報 武藤菜摘(比文2年)
編集スタッフ 大庭夏海(人文4年)
湯地 遼(人文4年)
矢畑佳(人文4年)
安部隆虎(比文3年)
島根崇志(国際2年)
鈴木優輔(人文1年)
岩佐拓哉(工シス1年)
藤原真梨子(工シス1年)